

令和7年度 学校評価 自己評価書

学校 北海道雨竜高等養護学校

1 本年度の重点目標

- 1 生徒が主語の授業づくり
- 2 「考え」「判断し」「実践する」力の育成
- 3 自分や相手を思いやる心の涵養

2 本年度の経営の重点

- 1 情報共有と連携の強化(報告・相談・確認)
- 2 同僚性と協働性に基づく業務推進
- 3 教育(生活)環境と危機管理体制の整備

3 自己評価結果

自己評価の達成状況や取組の適切さについては、職員評価と保護者アンケート関連項目を併せるとともに、自由記述の内容も加えて評価する。

A(達成) B(おおむね達成) C(やや不十分) D(不十分)

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	検討事項・改善の方策	各アンケート関連項目
学校経営	管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、学校経営を行っているか。	B	B	本校の課題を教職員で共有し、そのためにどのようなことができるか、どのように改善策を検討していくかをまとめ、教職員主導で進めていけるように管理職が舵取りをしていくことが必要と考える。そのために課題解決が必要と考える事項や様々なアイデアを出し合い、論点を整理し検討するために学校課題検討委員会を機能させることが必要と考える。	教1
教育課程	本校の教育課程は、生徒の特性や地域の実態ならびに学科の特色等を考慮して編成し、適切に実施されていますか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、校内研究で各指導形態の内容や配列について検討していることを踏まえて、生徒にとって有効的な指導内容と方法について深め、本校の教育課程の改善を進めていく。 ・生徒が主体的に考えられるような指導方法を考え、協働的な学びを引き続き工夫して展開していく。 	教2、保1
	地域資源を活用し、地域と連携した教育活動を行っていますか。	B	B		教3、保2
個別の計画等	個別の指導計画・教育支援計画に基づき、具体的な目標の設定と評価を行っていますか。	B	B		教4、保3
学習指導	生徒一人一人に対し、「分かる」「できる」授業を通して、「考え」「判断し」「行動する」力の育成に努めているか。	A	A	教5、保4	
進路指導	社会的・職業的自立に向けて必要となる資質や能力の育成を行っているか。	A	A	生徒一人一人の状況に合わせ、主体的に考えられるように工夫し、引き続き進路に向けての学習を進めていく。	教6 保5、6
生徒指導	生徒理解に努め、教職員と生徒との信頼関係を築き、学舎連携のもと指導に取り組むことに努めているか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポート等生徒同士のかかわりについてお互いに深めていく取組は有効的であるため、教職員で共通理解し、引き続き進めていく。 ・いじめ事案の際、原因と今後どのようにしていくかが重要であるため、教職員の共通理解と事後指導を引き続き丁寧に進めていく。 	教7、保7
	いじめの実態把握と早期発見・報告に努めるとともに、組織的な対応・課題解決を行っているか。	A	A		教8、保8
	生徒一人一人の人格と個性を尊重し、思いやりのある豊かな人間性を育む教育活動を推進しているか。	A	A		教9、保9
寄宿舎指導	生徒の自立的に活動する力の向上や余暇の充実を図る指導や支援を行っているか。	B	A	生徒が自立的に生活する力をつけるために実態に応じた日常生活の指導や生徒指導に関する対応について意見交換し、学舎連携して取り組んでいく。	教10 保10
安全・健康・指導	日常の健康観察や衛生管理、疾病予防、生徒の自己健康管理能力の向上のための指導を行っているか。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き熱中症対策や感染症対策など日常的な健康管理の取組を行っている。 ・給食を通じた食育の取り組みは、工夫されており、引き続き取り組んでいくとともに食事の指導については教職員が指導方法を共有し、統一した形で進めていくとよい。 	教11 保11
	食に関する指導を通して生徒の健康管理や「食」の大切さについての理解啓発を行っているか。	A	A		教12 保12

危機管理	防災教育・訓練の実施と必要備品の整備を計画的に進めているか。	A	A	自衛隊の協力を得て行った防災教室はとても効果的であった。引き続き生徒が理解しやすい方法を工夫していく。	教13 保13
情報提供	学校の経営方針や教育活動、寄宿舎の生活について、地域や保護者、関係機関等に対して適切に情報発信を行っているか。	B	B	地域での新たな学習活動が展開され、地域の人に発信するよい機会となった。引き続き地域の状況に応じた形で進めていく。	教14 保14
保護者との連携	保護者と教職員が連携、協力して、充実したPTA活動や諸活動を行っているか。	B	B	PTA活動では施設職場見学を2回実施した。平日開催のため教職員の参加は限定されるが、寄宿舎指導員も参加し、保護者と一緒に見学することは卒後の生活を知り、保護者と一緒に考えていくという点からも意義がある。	教15 保15、16
服務規律	教職員は生徒の人権を尊重し、教育公務員としてふさわしい服装や身だしなみ、節度ある行動や態度・言葉遣いで教育活動を行っているか。	B	B	引き続き教育公務員としてふさわしい服装や身だしなみ、行動や言葉遣い、態度に努める。	教16 保17
センター的機能	教育相談、小・中・高への支援など、特別支援教育のセンター的な機能の発揮に努めているか。	A	A	パートナーティーチャー等他校の支援を行い、センター的機能を果たしている。また、生徒の状況に応じた関係機関との連携に取り組んでおり、引き続き生徒、家庭の状況に合わせて行っていく。	教17
組織運営	働き方改革に向け、諸法規への対応や時間外勤務縮減を意識した職務の効率化に取り組んでいるか。	B	B	様々な業務を行っていく上での効果的で効率的な組織を検討していく必要がある。取り組みを進めていく上でもお互い助け合う職員集団になっていくようそれぞれがお互いに対話により意識を高めていく。	教18
	教職員一人一人は、互いの信頼と協力の基、同僚性と協働性に基づいて業務を行っているか。	B	B		教19
研修	校内外の研修を積極的に活用し、授業改善に生かしているか。	B	B	・校内研究では、教職員一人一人が本校の教育課程でどのような方法が生徒が学ぶにはよりよいかを協議しており、引き続き進めていく。また、集合形式の研修会に参加を促していく。	教20

4 自己評価における特記事項

○教職員評価及び保護者のアンケートで同内容の項目をまとめ、それぞれの結果を基に分析し、改善の方策を検討した。